

令和2年度

東埼玉資源環境組合 財務書類

統一基準モデル

令和4年(2022年)3月

東埼玉資源環境組合

目 次

I. 公会計制度による財務書類4表	
1. 統一モデルについて	1
2. 作業基準日	1
3. 財務書類4表について	2
4. 財務書類4表の相関関係	6
II. 財務書類4表	
貸借対照表	9
行政コスト計算書	10
純資産変動計算書	11
資金収支計算	12
III. 財務書類における注記	
1. 重要な会計方針	13
2. 重要な会計方針の変更等	14
3. 重要な後発事象	14
4. 偶発債務	14
5. 追加情報	14
(附属明細書)	
有形固定資産の明細	17
有形固定資産に係る行政目的別の明細	17
基金の明細	17
地方債等（借入先別）の明細	18
地方債等（利率別）の明細	18
地方債等（返済期間別）の明細	18
特定の契約条項が付された地方債等の概要	18
引当金の明細	19
補助金等の明細	19
財源の明細	19
財源情報の明細	19
資金の明細	19

I. 公会計制度による財務書類4表

1. 統一モデルについて

統一モデルは、開始貸借対照表を固定資産台帳などにに基づき作成し、現金取引の情報だけでなく、ストック・フロー情報を網羅的に公正価値により把握した上で、個々の取引情報を発生主義により複式記帳して作成することを前提としたモデルです。総務省は、平成 27 年 1 月に「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」を示し、平成 29 年度までにすべての自治体において「統一モデル」による財務書類等を作成することを要請しています。これを受け、東埼玉資源環境組合では統一モデルによる財務書類を作成しました。

発生主義とは、費用・収益の認識を現金収支にかかわらず、その取引および事象が発生した時点で認識する方法です。複式簿記とは、取引を原因と結果に分けて二面的に記録していく方法であり、貸借平均の原理により、自己検証機能を有するとともに、フローである歳入・歳出の記録とストックである資産・負債の変動の記録を同時に記録することができるので、財務書類の数値から元帳、伝票に遡って検証することが可能です。

また、決算情報（決算分析のための情報）の作成・開示のみならず、事業や公共施設などのマネジメントの促進をも可能にする勘定科目体系を備えています。

2. 作成基準日

財務書類の作成基準日は、会計年度の最終日である令和 3 年(2021 年)3 月 31 日を基準日として作成しています。令和 3 年 4 月 1 日から令和 3 年 5 月 31 日までの出納整理期間の収支については、基準日までに収入・支出があったものとして取り扱っています。

3. 財務書類4表について

財務書類4表とは、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4つの財務書類をいいます。

①貸借対照表【BS：Balance Sheet】

貸借対照表は、基準日における財政状態を明らかにするもので、資産、負債、純資産の3つの要素から構成されています。左側に組合の運営に必要な「資産」が、また、右側にそれらを築くための借入金などで将来の世代が返済することになる「負債」および国・県などからの補助金、今までの世代が負担した組合市町からの分担金など、返済の必要がない「純資産」が記載されています。

<p>A 資産 (所有財産や権利で、将来世代が享受するであろう便益)</p> <p>I. 固定資産</p> <p>a. 有形固定資産</p> <p>①事業用資産 ごみ処理施設、汚泥再生処理センターなどの土地、建物およびそれに付随する資産</p> <p>②インフラ資産 道路・公園・下水道など売却できないとされた資産</p> <p>③物品(プラント設備なども含む)</p> <p>b. 無形固定資産</p> <p>C. 投資その他の資産 出資金、積立金など長期に保有するもの</p> <p>II. 流動資産 現金および3カ月以内の短期投資など</p>	<p>B 負債 (将来世代が負うことになる借金などの負担)</p> <p>I. 固定負債</p> <p>a. 地方債 発行した公債のうち、償還期限が1年を超えるもの</p> <p>b. 退職手当引当金 年度末に全職員が退職した場合に支払うべき金額</p> <p>c. その他 1年を超えて支払いや返済を予定している債務</p> <p>II. 流動負債</p> <p>a. 1年内償還予定地方債 発行した公債のうち、翌年度償還を予定しているもの</p> <p>b. 賞与等引当金 翌期に支払う賞与に備えて、見積計上した金額</p> <p>c. その他 1年以内に支払や返済を予定している債務</p>
	<p>C 純資産【A-B】 (現在までの世代が負担した金額で、返済の必要がない正味の資産)</p> <p>I. 固定資産等形成分 資産形成のために充当した資源の蓄積</p> <p>II. 余剰分(不足分) 地方公共団体の費消可能な資源の蓄積</p>
<p>資 産 合 計</p>	<p>負 債 ・ 純 資 産 合 計</p>

②行政コスト計算書【PL：Profit and Loss statement】

行政コスト計算書は、会計期間中の業績、つまり、1年間の廃棄物処理事業に費やされたコスト（費用）と収益の取引高を明らかにするものです。現行会計では捕捉できなかった減価償却費など現金を伴わないコストについても計上しています。

A 経常費用【I + II + III + IV】
I. 人件費 職員の給与・議員報酬・退職手当負担金など
II. 物件費等 物品購入・光熱水費・施設などの維持補修費・減価償却費など
III. 移転費用 社会保障給付費・各種団体への負担金など
IV. その他のコスト 地方債の利子、徴収不能引当金繰入額など
B 経常収益 ごみ処理手数料および電力売払代金等保有資産から発生する収益など
C 純経常行政コスト【A - B】 経常費用から経常収益を差し引いて計算をする、通常活動により経常的に生ずる行政コスト

③純資産変動計算書【NW：Net Worth statement】

純資産変動計算書は、会計期間中の貸借対照表の純資産の変動およびその内部構成の変動（その他の純資産減少原因・財源およびその他の純資産増加原因の取引高）を明らかにするものです。すなわち貸借対照表の純資産の期首と期末の残高と期中の増加および減少、それぞれの額を表しています。

A 前年度末純資産残高
B 本年分純資産変動額【I + II + III + IV + V + VI】
I. 純行政コスト
純行政コストへの財源措置
II. 財源【a + b】
a. 税金等（分担金）
組合市町からの分担金
b. 国県等補助金
国庫支出金
III. 固定資産等の変動（内部変動）
a. 有形固定資産の増加・減少
有形・無形固定資産の購入、売却、減価償却、除却など
b. 貸付金・基金の増加・減少
貸付金の貸付け、回収・基金の増加、取崩など
IV. 資産評価差額
有価証券などの評価差額
V. 無償所管換等
無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
VI. その他
上記以外の純資産および内部構成の変動
C 本年度末純資産残高【A + B】

④資金収支計算書【CF：Cash Flow statemnet】

資金収支計算書は、会計期間中の資金収支の状態、すなわち資金の利用状況および資金の獲得能力を明らかにするものです。期首と期末の残高と期中の増加および減少、それぞれの額を表しています。現行の現金主義会計の決算書に近い書類になります。

A 本年度資金収支額 (I + II + III)
I. 業務活動収支 (b + d - a - c)
a. 業務支出 業務費用支出…人件費・物件費等・支払利息など 移転費用支出…補助金等支出・社会保障給付支出など
b. 業務収入 ごみ処理手数料など
c. 臨時支出
d. 臨時収入
II. 投資活動収支 (b - a)
a. 投資活動支出 公共施設等整備費支出・基金の積立など
b. 投資活動収入 基金の取崩し・資産の売却など
III. 財務活動収支 (b - a)
a. 財務活動支出 地方債の返済など
b. 財務活動収入 地方債の発行収入など
B 前年度末資金残高
C 本年度末資金残高 (A + B)

4. 財務書類4表の相関関係

4つの財務書類の関連性には次の3つポイントがあり、その相関関係は図のようになります。

- ① 貸借対照表【BS】の現金預金は資金収支計算書【CF】の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。

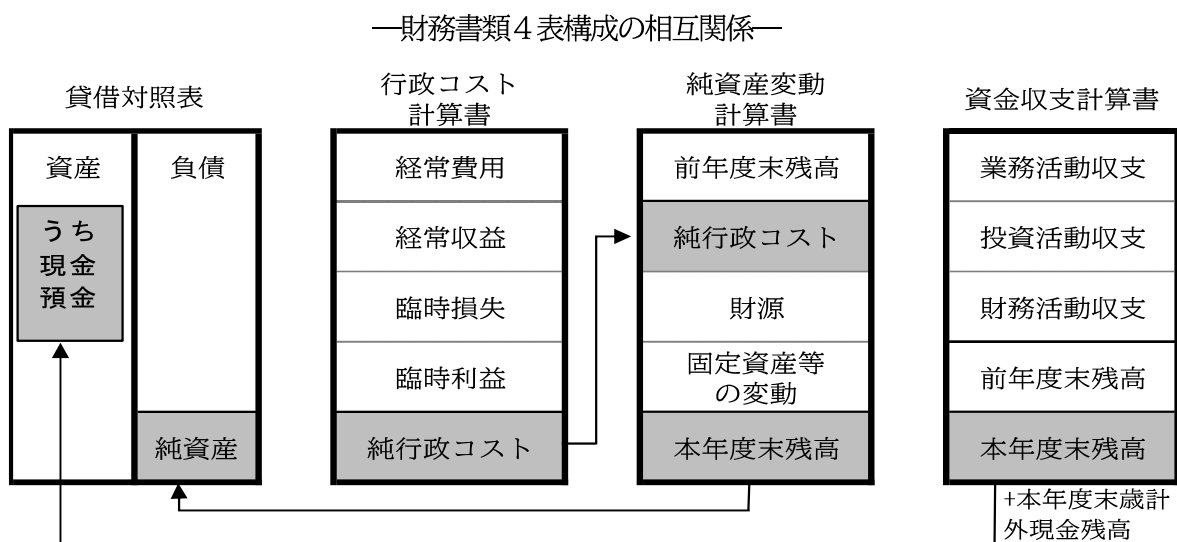
貸借対照表上の現金預金とは、決算日時点での現金(手許現金および要求払預金)および現金同等物から構成され、資金収支計算書で示される本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。資金収支計算書は現金預金(歳計外現金を除く。)の期中の動きを表しており、貸借対照表の現金預金の明細表といえます。

- ② 行政コスト計算書【PL】の純行政コストは純資産変動計算書【NW】の純行政コストと対応します。

行政コスト計算書の純行政コストは何らかの財源が充てられたものであり、その財源は純資産変動計算書に計上されています。したがって、純資産変動計算書における当期変動高の財源の用途のうち、純行政コストへの財源措置の金額と対応します。

- ③ 貸借対照表【BS】の純資産は純資産変動計算書【NW】の本年度末残高と対応します。

貸借対照表の純資産は資産と負債の差額として示され、純資産変動計算書の本年度末残高と対応します。純資産変動計算書は純資産の期中の増減を表しており、貸借対照表の純資産の部の明細表といえます。



- ・ 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- ・ 貸借対照表の「純資産」の金額は、資産と負債の差額として計算されますが、これは純資産変動計算書の期末残高と対応します。
- ・ 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

II. 財務書類4表

貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

(単位:円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	40,729,338,711	固定負債	9,877,856,235
有形固定資産	34,238,338,711	地方債	9,358,462,352
事業用資産	20,492,428,788	長期未払金	-
土地	6,496,931,111	退職手当引当金	519,393,883
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	25,900,208,483	その他	-
建物減価償却累計額	-11,904,710,806	流動負債	1,316,657,956
工作物	-	1年内償還予定地方債	1,185,793,448
工作物減価償却累計額	-	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	36,825,782
航空機	-	預り金	94,038,726
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	11,194,514,191
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	-	固定資産等形成分	40,729,338,711
インフラ資産	-	余剰分(不足分)	-10,900,678,893
土地	-		
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	41,097,290,430		
物品減価償却累計額	-27,351,380,507		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	6,491,000,000		
投資及び出資金	-		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	-		
長期貸付金	-		
基金	6,491,000,000		
減債基金	-		
その他	6,491,000,000		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	293,835,298		
現金預金	293,835,298		
未収金	-		
短期貸付金	-		
基金	-		
財政調整基金	-		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
資産合計	41,023,174,009	純資産合計	29,828,659,818
		負債及び純資産合計	41,023,174,009

行政コスト計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:円)

科目名	金額
経常費用	5,977,452,891
業務費用	5,782,072,831
人件費	482,922,941
職員給与費	362,696,281
賞与等引当金繰入額	36,825,782
退職手当引当金繰入額	64,051,736
その他	19,349,142
物件費等	5,262,603,555
物件費	1,990,862,829
維持補修費	1,419,689,864
減価償却費	1,852,050,862
その他	-
その他の業務費用	36,546,335
支払利息	30,128,823
徴収不能引当金繰入額	-
その他	6,417,512
移転費用	195,380,060
補助金等	193,134,360
社会保障給付	-
他会計への繰出金	-
その他	2,245,700
経常収益	2,226,130,709
使用料及び手数料	1,370,900,370
その他	855,230,339
純経常行政コスト	3,751,322,182
臨時損失	607,540
災害復旧事業費	-
資産除売却損	607,540
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	3,751,929,722

純資産変動計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	
前年度末純資産残高	30,613,814,140	42,066,227,327	-11,452,413,187	
純行政コスト(△)	-3,751,929,722		-3,751,929,722	
財源	2,964,345,400		2,964,345,400	
税収等	2,964,000,000		2,964,000,000	
国県等補助金	345,400		345,400	
本年度差額	-787,584,322		-787,584,322	
固定資産等の変動(内部変動)		-1,339,318,616	1,339,318,616	
有形固定資産等の増加		1,481,127,236	-1,481,127,236	
有形固定資産等の減少		-2,746,445,852	2,746,445,852	
貸付金・基金等の増加		138,000,000	-138,000,000	
貸付金・基金等の減少		-212,000,000	212,000,000	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	2,430,000	2,430,000		
その他	-	-		
本年度純資産変動額	-785,154,322	-1,336,888,616	551,734,294	
本年度末純資産残高	29,828,659,818	40,729,338,711	-10,900,678,893	

資金収支計算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

(単位:円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	4,060,641,457
業務費用支出	3,865,261,397
人件費支出	418,162,369
物件費等支出	3,410,552,693
支払利息支出	30,128,823
その他の支出	6,417,512
移転費用支出	195,380,060
補助金等支出	193,134,360
社会保障給付支出	-
他会計への繰出支出	-
その他の支出	2,245,700
業務収入	5,190,476,109
税収等収入	2,964,000,000
国県等補助金収入	345,400
使用料及び手数料収入	1,370,900,370
その他の収入	855,230,339
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	1,129,834,652
【投資活動収支】	
投資活動支出	725,339,786
公共施設等整備費支出	587,339,786
基金積立金支出	138,000,000
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	212,000,000
国県等補助金収入	-
基金取崩収入	212,000,000
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	-513,339,786
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,122,290,062
地方債償還支出	1,122,290,062
その他の支出	-
財務活動収入	438,300,000
地方債発行収入	438,300,000
その他の収入	-
財務活動収支	-683,990,062
本年度資金収支額	-67,495,196
前年度末資金残高	267,291,768
本年度末資金残高	199,796,572
前年度末歳計外現金残高	93,191,998
本年度歳計外現金増減額	846,728
本年度末歳計外現金残高	94,038,726
本年度末現金預金残高	293,835,298

【財務書類における注記】

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和 59 年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達原価

イ. 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

② 無形固定資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

(2) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 24 年～50 年

建物付属設備 8 年～50 年

機械器具 3 年～38 年

物品 4 年～20 年

② 無形固定資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・定額法

(3) 引当金の計上基準及び算定方法

・賞与引当金

翌年度 6 月支給予定の期末・勤勉手当及び法定福利費のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

・退職給付引当金

退職手当債務から、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額を加算した額を計上しています。

※持分相当額がマイナスであるため。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(5) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としております。

このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

(6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

・消費税等の会計処理

税込方式によっております。

2. 重要な会計方針の変更等

該当なし。

3. 重要な後発事象

概要なし。

4. 偶発債務

該当なし。

5. 追加情報

(1) 対象範囲（対象とする会計）

一般会計

※埼玉県市町村総合事務組合は、みなし連結により対応しております。

(2) 出納整理期間について、出納整理期間が設けられている旨（根拠条文を含みます。）

及び出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としている旨、財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）ですが、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

（地方自治法 235 条の 5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の 5 月 31 日をもって閉鎖する。」）

(3) 表示単位未満の金額は四捨五入することとしているため、合計額等の金額が一致しない場合があります。

附属明細書

有形固定資産の明細

(単位:千円)

区分	前年度末残高 (A)	本年度増加額 (B)	本年度減少額 (C)	本年度末残高 (A)+(B)-(C) (D)	本年度末 減価償却累計額 (E)	本年度減価償却額 (F)	差引本年度末残高 (D)-(E) (G)
事業用資産	32,352,678	44,462	-	32,397,140	11,904,711	713,941	20,492,429
土地	6,496,931	-	-	6,496,931	-	-	6,496,931
立木竹	-	-	-	-	-	-	-
建物	21,987,001	-	-	21,987,001	10,074,735	553,365	11,912,266
建物付属設備	3,868,746	44,462	-	3,913,208	1,829,976	160,576	2,083,231
工作物	-	-	-	-	-	-	-
船舶	-	-	-	-	-	-	-
浮標等	-	-	-	-	-	-	-
航空機	-	-	-	-	-	-	-
物品	41,445,770	545,308	893,787	41,097,290	27,351,381	1,138,109	13,745,910
機械器具	41,221,750	542,264	891,824	40,872,190	27,191,954	1,125,833	13,680,236
物品	224,020	3,044	1,964	225,100	159,427	12,276	65,674
美術品	-	-	-	-	-	-	-
合計	73,798,448	589,770	893,787	73,494,430	39,256,091	1,852,051	34,238,339

有形固定資産に係る行政目的別の明細

(単位:千円)

区分	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	合計
事業用資産	-	-	-	20,492,429	-	-	-	20,492,429
土地	-	-	-	6,496,931	-	-	-	6,496,931
立木竹	-	-	-	-	-	-	-	-
建物	-	-	-	11,912,266	-	-	-	11,912,266
建物付属設備	-	-	-	2,083,231	-	-	-	2,083,231
工作物	-	-	-	-	-	-	-	-
船舶	-	-	-	-	-	-	-	-
浮標等	-	-	-	-	-	-	-	-
航空機	-	-	-	-	-	-	-	-
物品	-	-	-	13,745,910	-	-	-	13,745,910
機械器具	-	-	-	13,680,236	-	-	-	13,680,236
物品	-	-	-	65,674	-	-	-	65,674
美術品	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	34,238,339	-	-	-	34,238,339

基金の明細

自治体名: 東埼玉資源環境組合

年度: 令和2年度

(単位:千円)

種類	現金預金	有価証券	土地	その他	合計 (貸借対照表計上額)	(参考)財産に関する 調書記載額
廃棄物処理施設整備基金	6,491,000				6,491,000	
合計	6,491,000	0	0	0	6,491,000	

地方債等（借入先別）の明細

(単位：千円)

種類	地方債等残高		政府資金	地方公共団体 金融機構	市中銀行	その他の 金融機関	地方公募債		その他
		うち1年内償還予定					うち共同発行債	うち住民公募債	
【通常分】									
一般公共事業									
公営住宅建設									
災害復旧									
教育・福祉施設	10,544,256	1,185,794	3,928,486	0	4,505,760	2,110,010			
一般単独事業									
その他									
【特別分】									
臨時財政対策債									
減税補てん債									
退職手当債									
その他									
合計	10,544,256	1,185,794	3,928,486	0	4,505,760	2,110,010	0	0	0

地方債等（利率別）の明細

(単位：千円)

地方債等残高	1.5%以下	1.5%超 2.0%以下	2.0%超 2.5%以下	2.5%超 3.0%以下	3.0%超 3.5%以下	3.5%超 4.0%以下	4.0%超	(参考)
								加重平均 利率
10,544,256	10,544,256	0	0	0	0	0	0	0.3%

地方債等（返済期間別）の明細

(単位：千円)

地方債等残高	1年以内	1年超	2年超	3年超	4年超	5年超	10年超	15年超	20年超
		2年以内	3年以内	4年以内	5年以内	10年以内	15年以内	20年以内	
10,544,256	1,185,794	1,221,289	1,203,746	1,152,022	1,101,149	4,494,985	185,271	0	0

特定の契約情報が付された地方債等の概要

特定の契約条項が 付された地方債等残高	契約条項の概要
	なし

引当金の明細

(単位：千円)

区分	前年度末残高	本年度増加額	本年度減少額		本年度末残高
			目的使用	その他	
賞与等引当金	36,117	36,826	36,117	-	36,826
退職手当引当金	455,342	64,052	-	-	519,394
合計	491,459	100,878	36,117	0	556,220

補助金等の明細

(単位：千円)

区分	名称	相手先	金額	支出目的
他団体への公共施設等整備補助金等 (所有外資産分)	第一工場ごみ処理施設基幹設備改造工事に伴う周辺環境整備負担金	越谷市	139,668	第一工場ごみ処理施設基幹設備改造工事に伴う周辺環境整備負担金
	計		139,668	
その他の補助金等	退職手当負担金	埼玉県市町村総合事務組合	26,092	職員の退職手当に係る負担金
	排水維持管理事業費負担金	増林土地改良区	9,000	第一工場周辺の地盤沈下対策に伴うパイプラインの維持管理及び周辺環境整備の負担金
	環境保全協力金	対象自治体	5,351	売却廃材などを受入先に搬出するための地元自治体への負担金
	その他	対象者	13,023	組合が加入する団体への年会費、職員の福利厚生に係る補助金、研修会参加費等
合計	計		53,466	
			193,134	

財源の明細

(単位：千円)

会計	区分	財源の内容	金額	
一般会計	税収等	分担金及び負担金	2,964,000	
		小計	2,964,000	
	国県等補助金	資本的補助金	国庫支出金	0
			計	0
		経常的補助金	国庫支出金	345
			計	345
	小計	345		
合計	合計	2,964,345		

財源情報の明細

(単位：千円)

区分	金額	内訳			
		国県等補助金	地方債等	税収等	その他
純行政コスト	3,751,930	345	90,865	1,743,300	1,917,419
有形固定資産等の増加	1,481,127	0	347,435	1,133,692	0
貸付金・基金等の増加	138,000	0	0	138,000	0
その他	2,430	0	0	0	2,430
合計	5,373,487	345	438,300	3,014,993	1,919,849

資金の明細

(単位：千円)

種類	本年度末残高
現金	0
要求払預金	199,797
定期性預金	0
歳計外現金	94,039
合計	293,836